

琉球大学学術リポジトリ

Clinical Features of Human Metapneumovirus Pneumonia in Non-Immunocompromised Patients : An Investigation of Three Long-Term Care Facility Outbreaks

メタデータ	言語: 出版者: University of the Ryukyus 公開日: 2021-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Karimata, Yosuke, 狩俣, 洋介 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48282

(別紙様式第7号)

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	狩俣 洋介
論文審査委員	審査日	令和 2年 7月 2日	
	主査教授	大野真治	
	副査教授	村山貞之	
	副査教授	梶田真一郎	
(論文題目)			
Clinical Features of Human Metapneumovirus Pneumonia in Non-Immunocompromised Patients: An Investigation of Three Long-Term Care Facility Outbreaks (非低免疫患者におけるヒトメタニューモウイルス肺炎の臨床的特徴: 3つの長期療養施設でのアウトブレイクにおける検討)			
(論文審査結果の要旨)			
1) 研究の背景と目的: ヒトメタニューモウイルス (hMPV) は 2001 年に分離同定された呼吸器感染症の原因ウイルスである。小児感冒の原因の一つであるが、成人における肺炎臨床像の報告は少ない。本論文は、重症心身障害者および高齢者長期療養施設で発生した 3つの hMPV アウトブレイクケースにおける臨床像、画像所見をレトロスペクティブに検討したものである。			
2) 研究結果: 確定診断例は 30 例、臨床診断症例は 75 例で、約半分の 51 例で肺炎が認められた。肺炎群と非肺炎群を比較すると、肺炎群の年齢が有意に高かった (中央値: 58 vs 44, $p < 0.001$)。理学所見では肺炎群で喘鳴の聴取頻度 (43% vs 9%, $p < 0.0001$) や呼吸不全の頻度 (31% vs 4%, $p < 0.0002$) が高かった。血液検査では、白血球数、CRP、CPK、AST、ALT の上昇が、いずれも肺炎群で多くみられた ($p < 0.05$)。単純 X 線写真では、肺門部から放射状に広がる気管支壁肥厚を伴った気管支肺炎のパターンをとるのが特徴的であった。CT において、陰影の分布が両側性 (88%)、複数肺葉 (100%)、肺門部優位 (96%) であるものが多かった。			
3) 研究の成果の意義と学術水準: hMPV 感染症の血液検査所見について検討した報告は少なく、特に CPK の上昇は本論文で示された新たな知見である。レジオネラやマイコプラズマ、インフルエンザウイルスなど、肺炎の際に CPK 上昇を来す病原微生物は限られており、血清 CPK 値測定は鑑別を絞る一助として有用だが、hMPV もその鑑別対象の一つとなる。また本論文で示された画像所見は、気道線毛上皮を感染巣とする hMPV の感染様式と一致した特徴的な所見であり、これも新たな知見である。hMPV は一般的な呼吸器ウイルスであるが、小児感冒の原因として認識されてきたことから、これまで起炎病原体不明とされてきた高齢者の肺炎には、hMPV 肺炎が潜在していた可能性がある。本論文において示された新たな知見により、早期に hMPV 感染症を疑い確定診断をつけることが、適切な感染拡大防止策や抗菌薬の適切な投与につながると考えられる。			
以上の結果から、本論文は学位授与に十分値するものと判断した。			

- 備 考
- 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書きとすること。
 - 2 要旨は800字～1200字以内にまとめること。
 - 3 *印は記入しないこと。

(別紙様式第8号)

最終試験結果の要旨

報告番号	*課程博第	号	氏名	狩俣 洋介
論文審査委員	審査日	令和 2年 7月 2日		
	主査教授	大野 真治		
	副査教授	村山 貞之		
	副査教授	梶田 真一		
(最終試験結果の要旨)				
<p>大学院博士課程の最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の点について確認した：</p> <p>① 提出論文の内容と意義についてよく把握していること、</p> <p>② 研究の目的と方法について熟知していること、</p> <p>③ 研究結果を正しく理解していること、</p> <p>④ 研究に関連した文献をよく理解していること、</p> <p>⑤ 研究結果の展望について明確な見解を有していること。</p> <p>よって、大学院博士課程を修了するに値する学力を有するものと判定し、最終試験を合格とした。</p>				

備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。

2 *印は記入しないこと。